翻訳理論に関する参考文献
①平子義雄．『翻訳の原理』．東京：大修館書店．二〇〇八．
②松浦友久．中国詩歌言論．東京：大修館書店．一九八六
③Christiane Nord. Translating as a Purposeful Activity—Functionalist Approaches Explained. 上海外語教育出版社．二〇〇二．

『俳文学報』投稿要項

1　投稿の種類と字数

本誌に掲載される論考は、その内容、分量に応じて次の2種とします。

A　二十七字×二二八行　　B　二十七字×六一二行

Aは、将来の長編論考につながる事実や覚書といった性格のもの。Bは本格的な長編論文とするが、資料紹介や年譜などで長編に及ぶものは対象外とします。

＊投稿に際しては、右の字数・行数にしたがってA4用紙に印字したものを提出してください。

2　投稿の締切と送付先

締切　毎年七月第三日曜日

送付先　〒六五八－〇〇六三　神戸市東灘区住吉山手四－四－三三

富田志津子　dfbay716@kcc.zaq.ne.jp

郵送によって、右記に**紙媒体の原稿三通（A4版）**が到着したことをもって投稿を受け付けたこととします。後日、電子メールの添付ファイルにより電子テキスト（ワード、一太郎などで作成されたもの）を右のアドレスに送付してください。

3　査読

投稿原稿については、A、Bともに、『会報』編集係三名によって査読を行い、修正や書き直しを求めることがあります。また、よりよい論考とするために再投稿をうながすことがあります。また、必要に応じて、編集係以外の会員に査読を依頼することがあります。

4　刊行時期

本誌の刊行は、毎年十月中旬を目途とします。

5　その他

①　資料紹介・翻刻の場合、投稿の際に写真もしくは原本のコピーなどを添付すること。なお、写真版の掲載が必要な場合には、その旨を投稿時に申し出ること。ただし、写真版の掲載については、編集係において判断する場合があります。

②　引用等については通行の字体を用いることとします。

③　著者校正については、初校時の一回のみとします。

例会の記録

第504回　平成29年9月17日（日）於柿衛文庫

其角の漢籍受容　三原尚子

——「嘲仏骨評」を中心に——

芭蕉発句における音韻の中国語訳　胡　文海

江戸座二世祇徳門の俳諧　早川由美

——高点付句集と歳旦——

蕪村筆「緑陰渡水図」（仮題）について　藤田真一

第505回　平成29年10月15日（日）於柿衛文庫

『宇陀法師』輪読　松尾真知子

同　露口香代子

『続あけがらす』輪読　村井磨音

第506回　平成29年12月17日（日）於柿衛文庫

神沢杜口の俳諧　奥野照夫

「海棠」考　中村真理

『宇陀法師』輪読　露口香代子

第507回　平成30年2月18日（日）於柿衛文庫

俳句の受容と英訳俳句

—ブライスとヘンダーソンの英訳俳句—　小村志保美

神沢杜口の俳諧　奥野照夫

『宇陀法師』輪読　露口香代子

第508回　平成30年3月18日（日）於柿衛文庫

シンポジウム

「世界の中の俳句（HAIKU）」

詩としての俳諧、俳諧としての詩　マブソン青眼

芭蕉発句における中国語訳

—四言詩形での試み—　胡　文海

H・Gヘンダーソンの英訳俳句　小村志保美

第509回　平成30年4月15日（日）

於関西学院大学梅田キャンパス

『宇陀法師』輪読　露口香代子

『続あけがらす』輪読　胡　文海

第510回　平成30年5月20日（日）於柿衛文庫

去来著『旅寝論』

—書誌と序文—　藤田真一

『其蜩庵杜口発句集』に登場する人物　奥野照夫

第511回　平成30年6月19日（日）於柿衛文庫

『其蜩庵杜口発句集』—杜口と蕪村—　奥野照夫

『続あけがらす』輪読　黒川悦子

第512回　平成30年7月15日（日）於柿衛文庫

『続あけがらす』輪読　西出春菜

『旅寝論』輪読　三原尚子

俳文学報　会報　大阪俳文学研究会　第52号

【頒価千五百円】

平成三十年十月十二日　印刷発行

発行所　大阪俳文学研究会

〒670-8542　姫路市上大野七丁目二—一

姫路獨協大学外国語学部

渡邉志津子研究室内

☎　〇七九二—二三—二二一一（代）

振替　〇〇九九〇—一—五七三六〇

印刷所　サンキ印刷株式会社

〒531-0076　大阪市北区大淀中一丁目七ノ一四

☎　（〇六）六四五三—六五四一（代）